

新年のご挨拶

国病久原会顧問 国立病院機構長崎医療センター院長 八橋 弘

国病久原会の会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。日頃から国立病院機構長崎医療センターをご支援いただき有難うございます。

さて、私が当院 8 代目の院長に就任して9か月が過ぎました。昨年4月1日の午前零時に、病院のホームページの院長挨拶文を更新し掲示しました。そして、その日の朝、国病久原会会長の廣田先生からお電話をいただき、私の院長挨拶文を読まれて安堵されたというメッセージとともに、お祝いのお言葉をいただきました。また、多くの国病久原会の会員の皆様からも暖かいお言葉をいただきました。改めて感謝申し上げます。

私は、院長挨拶文を考える上で、当院の歴代院長が、その時に何を考え、何を決断され、何を実行されたのか、とても知りたくなり、国病久原会のホームページに掲載されている原稿や記事を繰り返し読み直しました。国病久原会ホームページに掲載されている、皆様が書かれた原稿や記事の内容は当院の歴史そのものであり、また当院の過去と現在をつなぐ架け橋です。国病久原会の会員の皆様、これからもどうぞ、宜しくお願いいたします。

ところで、令和5年は干支では兎年になります。月にはウサギが住んでいると子供の頃から聞かされてきましたが、今昔物語には、空腹の老人に食を供する為におこなった兎の捨て身の慈悲行を後世に伝える為に、神が兎を月に昇らせたという話が紹介されています。昨年の11月8日、ウサギの姿が見え隠れする皆既月食を大村の地でも観察することができました。そしてその1か月後の12月11日、日本の宇宙ベンチャー企業が開発した「ispace」の月着陸船が打ち上げられました。このニュースを聞いて、日本が開発した月着陸船は、新しい世界へと向かって進む希望の船であるような気がしました。

「月に旅行に行く、月で暮らす、宇宙で暮らすことが、普通のことになる日がやってくる。その為の医学、宇宙医学への研究とその実用化は、今、地上に住む人々の健康を守ることにもつながるかもしれない」、病院からの帰り道、木場の竹林の間から昇ったばかりの月の中にウサギの姿を見つけては、そのようなことを考えたりしています。

今年は、コロナも収束して明るい年になると期待しています。今年もどうぞよろしく願います。



11月8日夜、皆既月食中の月（八橋撮影）



11月9日夜、皆既月食の翌日の月（八橋撮影）

年頭のご挨拶

国病久原会名誉顧問 長崎県病院企業団企業長 米倉正大

あけましておめでとうございます。COVID-19も発生から3年が終わろうとしています。昨年を振り返ってみますと、私が所属している長崎県病院企業団は、本土の病院と違ってだれにも頼らず、一般医療はもちろんコロナ感染症患者の入院、発熱外来、ワクチン接種と4つの仕事を、同時にやらなければならなかったという点で、大変な毎日を過ごしました。しかし、昨年夏の第7波の時はみんなで協力し合って、この危機をみごとに乗り切ることができました。今は8波に突入していますが、これからはwithコロナの世界で生きていかなければならないと覚悟しています。

一方、世界に目を向けると今年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は、長期戦となり両国に多くの戦死者が出ていると同時に、ウクライナ全土が言われのない破壊にさらされています。核戦争にもなりかねない状況に、ただ世界は息を凝らしてみているだけで無力さを感じます。また、地球温暖化は、世界の多くの地域で水害や干ばつなどの異常気象を引き起こし、もう引き返しがつかない状況になっているのではないかと思うほどです。我々の世代で、地球の未来を台無しにしてもいいのかと思いつつも、いったん享受した快適な暮らしを手放すのも簡単ではありません。今、私たちにできるSDGsは何かあるのか、考えながら生活する日々が続いています。虫のいい話かもしれませんが、今年は、ロシアのウクライナ侵攻が終わり、コロナ感染も収束し、数年前の世界に戻ることを祈っています。プーチンとコロナは私たちに教えてくれました。『平凡に生きることが何と幸せなことなのか、人間よ！ 驕ることなかれ』

あけまして おめでとうございます

国病久原会会長 廣田典祥

ここ数年、新型コロナウイルスの猛威で大変な時が続いていますが、こうして皆様にご挨拶できることを幸せに思っております。この間、本格的な総会を開催できておりません。当会の目的、親睦交流と旧交を温めるために、ご挨拶を交わすことができるのが、唯一このホームページになってしまいました。

昨年3月に江崎宏典院長さんが退職されました。江崎院長在職中にお陰で国病久原会ホームページを立ち上げることができました。これが会員相互のコミュニケーションツールとしてその後何とか役に立っております。これまで当会の顧問として温かいご指導を頂き誠に有難うございました。今後も当会の名誉顧問としてご助言等をよろしくお願いいたします。

昨年4月には八橋 弘先生が新院長に就任されました。会長からも直接お目にかかり祝意を述べたかったのですが、コロナ禍でしたので電話にて、その意思を伝えました。会長と二名の副会長3名が揃ってようやくご挨拶できたのは、暮れの12月6日です。その時、事務部長、看護部長さんとも親しく歓談することができました。



左から、中原副会長、八橋院長、廣田会長、出口副会長、大門事務部長、西山看護部長

其の際、八橋院長から当センターの伝統を隈なく知るために当会のホームページに掲載されている記事を丹念に読みましたとのお話をお聞きしました。これには感激しました。国病久原会のホームページの記事には、かつて当センターで仕事をしていた職員の生の声が綴られており、其の内容が後々の現職の人にも知らず知らずに影響を与えているのだと実感した次第です。こうして先輩達が残した足跡、いくばくかの伝統として、次世代へと伝承されることを知り、「世代間を超えた繋がり」を維持できていることは当会の存在意義の一つであると思いました。

八橋院長さんには当会の顧問として、何かとご指導をいただけますようお願いいたします。

昨年も総会開催を流してしまいましたので、これをなんとか食い止めるために、長崎川棚医療センター院長藤岡ひかる先生にホームページ上に記念講演をお願いしました。講演のなかでの先生のお言葉「人生の財産は、出会った皆さん方です」が私には強い印象として残っています。私も先生のご講演を拝読して人生の財産を得た思いがしております。

今年こそ平穏、無事で過ごしてゆきたいとここ数年、新年を迎える毎にそう思います。会員の皆様にとり今年も良いお年になることを切に祈ります。

2023 新年のご挨拶

国病久原会副会長 中原賢一

久原会の皆様、2023年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

振り返れば2022年は変化の多い年でした。世界的にはコロナの波が次々と襲い、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、さらに中国と台湾の緊張、円安、エネルギー危機など、多くの長期的に危惧すべき事が連続しました。国内では安倍首相の暗殺をはじめとして不安な出来事が続きました。一方スポーツ界ではサッカーや野球などの選手の活躍が気持ちを明るくしてくれました。長崎医療センターでは、長年病院を牽引していただいた江崎院長が退官され、新しく八橋先生が院長に就任し、体制を刷新しての出発となりました。また年末の高山先生の長崎大学教授就任のニュースは大変嬉しい事でした。

私は長崎医療センターに10年間勤務しましたが、現在の諫早の職場に来て10年が過ぎ、長崎医療センターより長くなりました。最近医療センターに電話をしても、初めて話す先生が多く、少し寂しい気もしますが、長崎医療センターの若いエネルギーを感じています。一方長崎医療センターのOBには、上司であった米倉先生をはじめ、大学でご活躍の先生や、開業されている先生などが多数おられ、現在進行形の様々な交流があります。このような場面では長崎医療センターで一緒に仕事をしたという親近感が私の大きな財産だと感じています。

久原会はOBの方々にとっては、様々な交流の場になっていますが、ここ数年間はコロナの影響で、総会を開催できずにいます。先日廣田会長に随行して、出口副会長と共に八橋院長、大門事務部長、西山看護部長とお会いし、今後の久原会総会の開催についてお話しする機会がありました。残念ではありますが、現状維持してしばらく待たざるを得ないと思いません。

皆様にとって今年がより良い、安心できる年になることを祈念します。

新しい年を迎えて

同副会長 出口 八重子

国病久原会 会員の皆様 あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいいたします。

私たちはコロナにより初めて3年間の自粛生活を経験しました。今年こそは緩和が進み、家族や友人と気兼ねなく会える日が来ることを期待しています。

おかげさまで日常生活での衰えもほとんどなく体力の維持ができました。今後も運動、栄養など体調管理に心がけ生活したいと思います。

皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈りいたします。

新年のご挨拶

国病久原会コメディカル部会 代表幹事 中尾 孝彦

新年、明けましておめでとうございます。

コロナ禍の正月も3回目となり、病院スタッフの方々のご苦勞をお察し致します。昨年は、ロシアのウクライナ侵攻などもあり、世界的な食糧不足と物価高、アメリカの高金利政策による円安、医薬品業界では、コロナ禍によるアセトアミノフェン等解熱鎮痛剤の供給不足、医薬品の相次ぐ出荷規制など、どれをとっても、暗い1年でした。ただ、年末、サッカーワールドカップでの日本の活躍が、一筋の明かり灯したような思いがあります。本年も、まだまだ、コロナ禍とウクライナ侵攻は続きそうです。病院スタッフの方々の健康とご活躍を心より願っております。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

国病久原会現職幹事 副院長 吉田真一郎

昨年4月に副院長を拝命し、これまで新型コロナ対応に明け暮れた9ヶ月でした。社会では「with コロナ」の新しい生活様式へと向かっています。新型コロナの感染法上の位置づけも、今年には「5類」に引き下げとなり、病院の新型コロナへの立ち向かい方も大きく変わるものと思います。ウイルスは変異し、治療薬、ワクチンも日々進歩しています。昨年末はサッカーで大いに盛り上がりました。森保ジャパン同様の「臨機応変な対応力」で、本年も通常医療と新型コロナ医療の両立、そして喫緊の課題であります働き方改革の推進にも取り組んで参ります。

国病久原会の皆さまのご指導とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

同現職幹事 副院長 黒木 保

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、令和5年新春を大きな希望をもってさわやかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年9月に副院長に就任し今年新たな気持ちで新年を迎えております。副院長業務として新たに医療安全が加わりました。個人的には医療安全に取り組む中で多くを学ばせていただき、多少なりとも成長できたと感じております。医療安全の現場では、改めて患者さんお一人お一人と正面から向き合う姿勢の重要性を再認識しました。医療安全は患者さんが安心して医療を受けられ、我々職員が安心して仕事に取り組めるための礎であり、ひいては、地域住民の皆さんの安心につながると考えています。

病院運営における私の思いは、職員の皆さんが楽しく仕事できて、患者さんが少しでも笑顔になれる明るい病院であることです。皆さんの変わらぬご支援をいただき病院全体で「一体感」を醸成し、危機的状況に際してもベクトルを1つにできる力強い病院を目指したいと思います。

今年は卯年です。うさぎの大ジャンプのごとく皆様にとりまして大きな飛躍の年になることを祈念いたします。今年もよろしくお願いいたします。



新春を彩るクリスマスローズです。

新年のご挨拶

同現職幹事 統括診療部長 本村秀樹

新春のお慶びを申し上げます。

昨年は多くのお力添えをいただきありがとうございました。今年もどうぞよろしく
お願いいたします。

病院のまわりにはとても立派な桜並木があります。年に数日ですが、それは見事な桜吹雪
に出会うことができます。また、病院の敷地には桜の木以外にも立派な木々たちがあります。
それらの木々は雪、猛暑、嵐など悪天候に耐えながらも、木を植えた方々の願いとともに、
数十年かけてしっかり成長しています。そして、病院内には多くのプロフェッショナルな職
員の方々がおられます。今年によく巡回して、気が付いていない宝もの、思いをみつけられ
るようにしていきたいと思います。

新年のご挨拶

同現職幹事 事務部長 大門 勇作

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も一昨年と同様にコロナに始まりコロナで終わったというイメージが強く、すでにこの状態は日常化しており、疑問すら持たなくなっている自分を怖いと感じますが、それでも少しずつ世界がコロナ禍以前に戻りつつあるのを年末のサッカーW杯等を見て実感しています。

私は当院勤務が通算で3回目となりますが、いつも決まって思うことは大村市周辺の住民の方は医療面に関して他地域と比べると大変幸せであると思います。

これは、長崎医療センターが地域医療機関と連携をしながら、救急医療の最後の砦として応需率ほぼ100%を達成しているからだだと思います。これも先人達の導きと教え、培われた長崎医療魂のなせる業だと思います。

混沌とした社会情勢の中ではありますが、本年も引き続き高度総合医療施設として、また、国立病院機構唯一の高度救命救急センターとしての役割を果たすべく職員一丸となって取り組んで行ければと思います。

年の初めに、令和5年が皆様にとりまして良い年となることをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

同現職幹事 看護部長 西山 ゆかり

新年あけましておめでとうございます。久原会会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

看護部では、職員間のコミュニケーションを良好にし、お互いがお互いを認め、高めてゆくことができる組織作りにつとめてきました。おかげ様でこの取り組みが、国立病院機構令和4年度QC活動、全国優秀賞をいただくことができました。当院の病院目標でもある、「お互いをリスペクトし、助け合う文化の醸成」を実現すべく、職員一丸となって今後も取り組んでいきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。